

99th Scientific Assembly and Annual Meeting, Radiological Society of North America 2013



北村 範子

東邦大学医学部放射線医学講座 (佐倉)

国際規模の放射線学会では最大である北米放射線学会 (Radiological Society of North America : RSNA) 2013 に参加し、教育展示で“Paraneoplastic Syndrome : Musculoskeletal Manifestations”を発表し、Certificate of Merit (ポスター賞) を頂いた。初参加で名誉ある賞を頂き、大変うれしく思うと同時に、このような機会を与えていただいたことに深く感謝している。

RSNA は毎年冬のシカゴで開催される。2013 年は 12 月 1~6 日に開催された。この時期は感謝祭が終わり、クリスマスシーズンに入る時期で、街がイルミネーションで彩られている。例年より暖かかったようで、厚手のコートを着て歩き回っていると汗ばむくらいの陽気だった。

学会場は日本では考えられないくらい広い。世界最大であるだけあって、演題の数も非常に多い。したがって、すべての演題を網羅することなど到底できず、人気の講演には人が殺到する。混乱を避けるために、講演はチケット制になっている。自分が聴きたい講演を予約し、席を確保しておくのである。もちろん予約できなかったが聴きたい講演も出てくるので、その場合は、開場の前に並び、予約した人が入り終わった後、席が空いていたら先着順で入ることができるというシステムを利用する。一般演題だけでなく、教育講演も充実しており、初心者でも興味深くかつ簡潔に理解することができる。このような制度は日本でももっと取り入れられてもいいのかもしれない。

この学会では、講演だけでなく、機器展示も魅力の 1 つである。毎年、最先端の computed tomography (CT) や magnetic resonance imaging (MRI)、超音波など画像診断に関連する機器が展示され、デモンストレーションも行われる。また、放射線科医のみならず放射線技師もたくさん発表する演題を提出している。東邦大学医療センター佐倉病院放射線科医局ではここ数年、放射線技師と参加し、最



e-poster の前で、放射線技師の伊藤さんと一緒に

先端の技術と知識とともに学んでいる。

今回の発表は、腫瘍随伴性の骨軟部病変をまとめたもので、実際にはあまり経験することができないまれな症例も含まれている。発表に際し、整形外科や呼吸器内科などの他科にも症例の検索や呈示をお願いした。また、自施設症例のみでは不十分であったため、他病院の症例もお借りするなど、さまざまな方面からご協力いただき、報告することができた。腫瘍随伴性の症例の一部では日常臨床で目にするものの多いものの、いろいろな科に分散され、一度に系統立てて検討する機会はほとんどないと思われる。今回の症例をまとめるにあたり、改めて各疾患について調べ直し、大変勉強になった。

放射線科には毎日、多科から膨大な画像が送られてくる。今回の経験で、放射線科とは画像診断や放射線治療を行うだけでなく、このような多科に分散した症例を拾い上げ、まとめ、各科にフィードバックすることも 1 つの重要な役割なのではないかと感じた。今後も診断・治療に役立つ画像診断をめざし、精進していきたいと思う。